

【遠山郷いい川づくり 河川情報シート】

※主に川に関する情報をまとめる(地域情報との重複可)

| 大項目 | 中項目 | 情報収集 | | |
|-----|--|--|---|----------------------------|
| | | 昔の状況(昭和世代) | 現在の状況 | 将来の状況 |
| 治水 | 流下能力 河床勾配 河川法線 河岸 護岸 河床 | 不明 不明 頭首工ができてから上流は河床が安定した 家(夜川瀬付近)から川の水面が見えた (大昔)遠山地震までは和田の集落内を流下していた (大昔)遠山地震までは和田の集落内を流下していた 水流は護岸にぶつかりながら蛇行している 和田の集落内に支川があった S40災害で築堤をして桜植樹してから、災害はない 保育園裏(旧中学校裏)から災害があった 下流部は護岸がなかった 昭和初めまで木材の搬出場だった(川への出入りが多かった) 護岸が全体的に低かった 水制工はなかった (大昔)夜川瀬は土石流が一晩で貯まったところ | 計画高水流量確率年数100年(S40年災害後に整備) 1/19(詳細は河川測量後)であり、流れは速い 頭首工から上流は河床が安定している 遠山中学裏から下流は所々、河床低下が激しい 夜川瀬付近は河床が下がっていて水面が見えない 地震により現在の法線に変わった 湾曲しながら和田地区を通過している 水流は護岸にぶつかりながら蛇行している 和田の集落内に支川は残ってない 下流右岸側の一部は護岸施設がない 上流部は掘り込み河道となっている 最近では災害は発生してない 最近では災害は発生してない トンネル上流の護岸は岩盤部に擦り付けられている 右岸側は掘り込み護岸となっている 左岸側は中下流部で築堤護岸となっている 護岸から数カ所の出入りはできる S40災害後に護岸を高く整備 左岸側の中流部に水制工が設置されている 平地になっている 中流部に護床ブロックが設置されている 中流部の河床は護床ブロックより低下している 昨年、巨石を並べた箇所の河床は安定している | 計画高水流量確率年数100年(S40年災害後に整備) |
| 利水 | 農業 防災 | 川の水を取り入れ、利用している。 川の水を取り入れ、利用している。 | 農業用水に利用している 防火用水に利用している | |
| 利用 | 漁業 水辺 水域 低水敷き 堤防 アクセス | カジカがいた 天然のアユ、ウナギが平岡から遡上していた 中学校対岸に淵があり、よく水遊びをした。 中学校対岸に淵があり、よく水遊びをした。 川に行くという感覚(川と生活空間の明確な境界がなかった) 川岸を車や人が自由に通行していた S40災害後に桜を植えた | 一時少なくなったが、水質が良くなったので増えてきている 天然のアユ、ウナギがいなくなった アユ、アマゴは放流されて生息している ウグイが生息している 上流にイワナが生息している 散歩(犬も一緒に)する人が多い 夏には子供達が水遊びをする 中学校対岸に淵があるが、水遊びはしていない。 中流部左岸は、御射山祭りの花火打ち上げ場所 中流部左岸は、どんど焼きの場所 川に降りるという感覚(川と生活空間の境界ができています) 桜並木となっている ウォーキング、散歩に利用されている 道の駅部分に階段護岸が2箇所ある 中流部左岸に1箇所づつ階段と車両乗り入れ部がある | |
| 施設 | 横断構造物 上流 中流 下流 堤防 河川内 保護対象 | 水制工はなかった | 和田大橋、中橋、かぐら大橋がある 中橋に温泉の導水管がある 頭首工がある 巨石を利用した横断構造物がある 水制工が設置されている 護床ブロックが敷き設けられている 上流部左岸に遠山中学校、和田保育園がある 中流部左岸に南信濃自治振興センター、福祉の里等がある 中流部右岸に道の駅「かぐらの湯」周辺観光施設 両岸に人家がある | |
| 災害 | | | 昭和40年に遠山川氾濫により中学校付近護岸被災 平成22年に遠山中学校裏被災 | |
| 活動 | 維持管理 | | 地元で年〇回程度、低水敷の草刈を行っている 桜並木の管理(剪定等) | |